

様式第3号(第12条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	平成25年度第4回吉川市児童福祉審議会
開 催 日 時	平成26年3月27日(木) 午後6時00分から 午後8時20分まで
開 催 場 所	吉川市役所第2庁舎204会議室
出席委員(者)氏名	和泉広恵会長、田中公明委員、戸張精一委員、林美希委員、 小助川美穂委員、林桂委員、五十嵐修委員、長井圭子委員
欠席委員(者)氏名	なし
担当課職員職氏名	子育て支援課 課長 戸張悦男 教育総務課 課長 上原良夫 子育て支援課 課長補佐 伴茂樹 子育て支援課児童福祉係 係長 濱田智恵 子育て支援課保育係 係長 渡辺剛 教育総務課管理係 係長 宗像浩 子育て支援課児童福祉係 主任 木村みのり 子育て支援課児童福祉係 主任 高尾匡
会議次第と会議の公開又は非公開の別	1 開 会 2 議 事 (1) 吉川市子ども・子育て支援事業計画作成のために実施する 利用意向等把握調査(ニーズ調査)の調査結果報告について (2) 吉川市子ども・子育て支援事業計画作成のために実施する 利用意向等把握調査(ニーズ調査)の調査結果を踏まえた 量の見込みについて (3) その他 3 閉 会 すべて公開
非公開の理由 (会議を非公開にした場合)	なし
傍 聴 者 の 数	0名
会 議 資 料 の 名 称	次第、資料1、資料2、参考資料1、参考資料2-1、 参考資料2-2
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
会議録確認指定者	戸張精一委員、五十嵐修委員
その他の必要事項	

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
事務局	<p>&lt;開会&gt;</p> <p>ただ今から、平成25年度第4回吉川市児童福祉審議会を開催させていただきます。</p>
事務局	<p>&lt;事務局挨拶&gt;</p> <p>戸張子育て支援課課長あいさつ。</p>
事務局	<p>&lt;資料確認&gt;</p> <p>配付資料の確認。</p>
事務局	<p>&lt;吉川市子ども・子育て支援事業計画作成のために実施する利用意向等把握調査(ニーズ調査)の調査結果報告について説明&gt;</p> <p><b>【関係資料】</b></p> <p><b>資料1「吉川市子ども・子育て支援事業計画作成のために実施する利用意向等把握調査(ニーズ調査)の集計結果を踏まえた分析について」</b></p>
和泉会長	<p>1点確認させていただくが、待機児童加速化プランは、待機児童解消加速化プランのことと理解していいか。</p>
事務局	<p>はい。</p>
和泉会長	<p>只今の御説明に対して何かご質問等ありますか。</p>
林美希委員	<p>子育て支援で対応できない点があるということだが、どのような点が管轄外なのか。</p>

事務局	<p>例えば、子どもを対象とした犯罪・事故の軽減などで、具体的に通学路にガードレールを設置することについて事業計画の中に記載することは難しい。また、公園の整備なども事業計画の中に位置づけるのは難しいと考えている。</p>
林美希委員	<p>担当部署に要請すればできるものなのか。</p>
事務局	<p>今回策定を予定している計画は、基本的に需給計画で特に教育・保育についての需給が大きな課題となっています。今回このような計画を策定するにあたり、単なる需給計画とならないように考えています。以前、御説明させていただきましたが、現行の次世代育成支援対策地域行動計画に付随するような各種事業については、できるだけ計画の中に盛り込んでいきたいと考えています。ただし、まちづくり全体の計画に関する事項は、各担当部署に伝えていきたいと考えています。</p>
小助川委員	<p>自由回答の中にもこのような類のアンケートなどは頻繁に来てその都度回答があるけれども、自分の意見がどのように反映されているのか確認する場所がないという意見があった。確かにその通りであると思う。自分の意見がどのような形で採用されて反映されたのかがわかる仕組みにならないといけない。</p>
事務局	<p>会議録はすべて公開しています。また、今回の集計結果についてもすべて公開していく予定です。貴重な御意見をいただいていますので、具体的な内容まで位置付けることは難しいと思いますが、考え方などを参考にしながら計画づくりを進めていきたいと考えています。</p>
林桂委員	<p>放課後児童クラブ事業について、資料1に3つの方針が出て</p>

<p>事務局</p>	<p>いるが、自由回答集の小学生児童を見ると、小学校4年生から6年生までの子どもを持つ保護者が何を求めているのかというと、子どもたちが学校から帰ってきて、安心して過ごせる場所があること。学童保育室もいいが、高学年になると学童保育室を利用したがる子どもも多くなるので、例えばおあしすや児童館などのような場所が増えて、朝から夕方まで安心して利用できる場所があれば、学童保育室が利用できなくてもよいと思う。また、学童保育室と保育所の保育時間が違うのはどういう理由からか。</p> <p>学童保育に関するご意見については、同じことを感じています。また、同じようなお電話を頂戴しているところです。確かに高学年になると学童保育に行きたくないという声もあります。学童保育室については、平成27年度から全学年に拡大していきたいと考えています。</p> <p>居場所づくりについては、公共施設がそのような場所になるのが一番望ましいと思いますが、新しい施設を建てるとなると、コスト等の様々な課題を市全体で考えるので難しい部分もあります。そのため、まずは学童保育室の充実を考えていきたいと思っています。</p> <p>また、保育時間の違いについては、保育所と学童保育室は、法律は同じですが、全く違う制度となっています。これまでも意見をいただいておりますが、勤務体制状況等の課題も多くあることから、現在の時間設定となっています。今後もいただいた御意見を踏まえて検討していきたいと考えています。</p>
<p>和泉会長</p>	<p>既存の施設や制度の中にある問題について、お金があまりかからない改善点もあると考える。計画には入らないところでも改善すれば使いやすくなる点があるため、さらなる充実を求め</p>

	<p>て対策をしてもらいたい。</p>
小助川委員	<p>学童保育室の需要予測を立てているが、放課後子ども教室という名前になった場合は、子育て支援課で対応できるのか。</p>
事務局	<p>放課後子ども教室は、所管が文部科学省となっているため、担当するのは教育委員会になると考えます。</p>
小助川委員	<p>小学校以降の子どもの居場所がないという意見が多かったように思う。また、新庁舎の中にキッズコーナーが設置されるという話を聞いたが、これを広げて活用するということを盛り込むことはできないか。</p> <p>今ある施設の活用という話が出たが、放課後に子どもが行ける施設としては体育館や公民館などがあると思うが、すべて管轄が違うのか。また、それを子育て支援課で放課後の子どもの居場所として活用することを進めることができないか。</p>
林美希委員	<p>関連するので質問させていただくが、市役所は事務的なことをするのがメインであると思う。新庁舎のキッズコーナーは待機場所であると思うので、子ども達が利用しやすい場所は、学校であるため、学校をもっと活用する方法が現実的であると思うがいかがか。</p>
事務局	<p>市役所については、事務スペースという考え方が第一原則で、市民の方々がスムーズに必要な手続きをとれることを最優先としています。その中で新庁舎の整備にあたっては、安全に待機できるキッズスペースの確保を要望し、取り入れていただいたところです。</p> <p>各公共施設については、所管がそれぞれ分かれているのが現</p>

	<p>状です。ただし、分かれていたとしても、改善については子育て支援課でも考えることができると考えていますので、今後も既存の公共施設の活用について検討していきたいと考えています。</p>
和泉会長	<p>他に御意見はあるか。</p>
田中委員	<p>自由回答を見て気になった点として、障害をお持ちの方への子育て支援の充実はどのように進めていくのか。</p> <p>また、昨年、さいたま市の学校での発達障害時の割合は、11人に1人というもので、吉川市も同じような状況になっていくと考える。そういった障害をお持ちの方々への対応はどのような形で行っていくのか。一律ではない対応が必要であると思う。</p>
和泉会長	<p>障害をお持ちの方々への現状と今後の対応について御説明いただきたい。</p>
事務局	<p>現状については、障害を抱えたお子さんの支援については、こども発達センターで個別に専門的な支援を行っています。また、発達障害の専門家を招いた講座を年複数回開催しています。さらに、保護者の方の悩み等を家庭児童相談員や保育所などで伺っているところです。</p> <p>今後については、事業計画の中で具体的に位置付けることは難しいと思われませんが、現在の事業の充実や取組へのアイデアなど検討し充実に努めていきたいと考えています。</p>
林美希委員	<p>幼稚園は、市全域で見ると需要を満たしているということだが、私立幼稚園に対して命令や指導はできないとは思いますが、説</p>

	<p>明等を通してお願いとして、近くの子どもから取ってくださいなどの声を届けることができたらいと思う。</p> <p>自由回答集を見ると、これが欲しい、あれが欲しいというものばかりで、わがままな意見が見受けられる。当事者として自分達もできることがあるということを知ってもらいたいし、ファミリー・サポート・センター等も協力できることがあるので、協力してほしいと思う。</p>
和泉会長	<p>幼稚園のことについて、自由回答集を見ると、明らかに一部の幼稚園で問題が生じているが、どのように考えているか。</p> <p>また、子育ての当事者としてどのように関わってもらおうのか事務局の考えを伺いたい。</p>
事務局	<p>幼稚園の申し込みについては、現在、市内に幼稚園が5園ありますが、平成27年度の新制度への参加については、周知や判断を含め、まだ対応していないのが現状です。今後、新制度の施設型給付へ移行する幼稚園が出てきた場合は、説明会、申し込み方法等の細かい部分について調整を進めていく中で、改善できるのであれば改善していきたい。</p> <p>自由回答集の意見については、子どもたちを育てていく第一義的な責任は保護者であると考えているため、そのような意識を高めていってほしいと思います。また、市内の拠点施設スタッフとも話をしていますが、地域で子どもを育てていくということの認識も高めていってほしいと考えています。</p>
和泉会長	<p>障害だけではなく、転入してきた保護者や子どもに対する対応などについても充実させていってほしい。</p>
事務局	<p>大切な内容であると考えています。高齢化社会に向かってい</p>

<p>小助川委員</p>	<p>くなかで、一人でも多くの子ども達に対して、小さなことでもいいので支援策を市民の方々と協力しながら取り組んでいきたいと思います。</p> <p>自由回答集の中で母子家庭や父子家庭へのサポートがまだ吉川市では少ないという意見があった。具体的に交流の場を設けたり、母子家庭や父子家庭の方々に交流会の開催を促してみる等の取り組みをしたらどうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>母子家庭や父子家庭へのサポートについては、充実しているとは言えない状況であると思いますので、交流の場や話せる場の充実を検討していきたいと思います。</p>
<p>和泉会長</p>	<p>これまでの意見を踏まえ、次の議事に進みたい。</p> <p><b>&lt;吉川市子ども・子育て支援事業計画作成のために実施する利用意向等把握調査（ニーズ調査）の集計結果を踏まえた量の見込みについて説明&gt;</b></p> <p><b>【関係資料】</b></p> <p><b>資料2「吉川市子ども・子育て支援事業計画作成のために実施する利用意向等把握調査（ニーズ調査）の集計結果を踏まえた量の見込みについて」</b></p>
<p>和泉会長</p>	<p>只今の御説明に対して何かご質問等ありますか。</p>
<p>林美希委員</p>	<p>複数の回答があったため、実際の数値とかけ離れているとの説明があった。これは、とりあえず利用できればどこでもいいという方がいると思う。</p>

事務局	<p>0歳から2歳の児童の保護者については、どちらにするか決めかねている場合もあるので、可能性のあるものとして、幼稚園、認可保育所、認可外保育所、ベビーシッターなど複数の項目に丸をつける回答が多くありました。</p>
林美希委員	<p>そういう人たちが気軽に話ができる場所が市役所にあると思います。</p>
事務局	<p>基本的なスタンスとしては、数字の集計は最大限汲み取っていくスタンスで考えているが、数字だけを汲み取るわけにもいかないため、そこに実態がどうなのか、どれくらい申し込みがきているのか、窓口の現場ではどのような意見が出ているのかなども加味して制度の基準を含め総合的に客観的な数字を出していきたいと考えています。</p> <p>いずれにしてもこのような希望が出ることで、回答者の生活に変化が生じることになるため、数字を大切に扱っていきたいと考えています。</p>
小助川委員	<p>ふわふわした数字が予想以上に効きすぎていて、想定の数値とかけ離れているような箇所がある。例えば、学童保育室や幼稚園の一時預かりなどはかなりかけ離れてしまっている。幼稚園については、納得のいく数値であるが、今回の数字をどう捉えればいいのか。</p>
事務局	<p>事務局としても同じような感覚を持っているところです。数値として複数の希望が盛り込まれてしまうので、どうしてもこのような結果になってしまいます。ただし、実態の状況を踏まえて計画に反映していきたいと考えています。</p>

田中委員	<p>数字はもう少しわかりやすくないか。どのように見ればいいのか。例えば実績の見込みについてだが、3ページ(2)の3～5歳児の2号認定について、見込みと受入可能人数が記載されていて、平成27年度は718人となっているが、これは受け入れができないということなのか。</p>
事務局	<p>見込みについては、平成26年3月時点の保育所への入所者、他市町への受託児童、申し込みがあったが入所に至っていない児童の合計の実数になっています。受入可能人数の547人につきましては、平成26年3月時点で市内の認可保育所の定員数となっています。平成27年度の718人については、今回のニーズ調査結果を受け、推計した数値となっています。そのため、718人という数値は、待機児童等が発生することを示しています。</p>
田中委員	<p>推計上はオーバーフローしているということか。</p>
事務局	<p>2号認定と3号認定の実績の受入可能人数である547人と323人の合計値が、平成26年3月時点での市の認可保育所の受入可能最大人数です。これに対し、平成27年度の数字は1561人となっているため、倍近い数字となっており、半分近くが入れないこととなります。しかし、現在も待機児童や入所待ち児童が発生していますが、ここまでの状況ではないことから、現状を踏まえながら事業計画に位置付けていきたいと考えています。</p>
和泉会長	<p>この数字をどのように活かすかということについて、平成27年度の推計を満たすような事業計画を立てなければいけないのか、あるいはそうではないのか検討が必要である。他に意見</p>

林桂委員	<p>等はあるか。</p> <p>待機児童をどう減らすかということだと思う。私が働いている職場は事業所内保育施設があり、土日祝日も受け入れが可能で、一日600円で見てもらえる。夏休みなども対応してもらえる。他にも事業所内保育施設があるため、保護者が知らないため、保育園の申し込み時から資料提示などができる機会が増えればよいと思う。</p>
事務局	<p>市内でも中央総合病院が事業所内保育を実施しています。これまでは管轄外となっていましたが、新制度では制度が変わっており、行政側からも事業所内保育が市内にあれば、4月以降に案内を送付していきたいと考えています。</p>
小助川委員	<p>数値の説明について、但し書きが多すぎるように思う。このことで、量の見込みの判断が難しくなるのではないか。幼児の1号認定については数字の予測がとてもわかりやすいが、それ以外は数字の乖離が大きすぎるため、審議会で量の見込みを審議するには限界があるのではないか。</p>
事務局	<p>設問の類型やカテゴリーの関係でこのような考え方が出ていると推測しているところです。今後は数字の根拠を示していく必要があるため、実態や実績を踏まえた推計を併合する形で示していきたいと考えています。</p>
林美希委員	<p>幼稚園に入れたい方は、おおよそ考えているので、このような数値になっていると思う。産休、育休の方等は迷っている。横浜市の待機児童問題で目についたのは、仕事の働き方や、保育所の入所など迷っているお母さんたちに方向性を示してくれ</p>

事務局	<p>るようなアドバイザーがいた。そのようなアドバイザーをこういう審議会で検討しているところもあると聞いたがいかがか。</p> <p>横浜市の保育コンシェルジュ、松戸市でも似たような事業を実施していますが、色々な要望がある中で気軽に相談できる窓口等は必要だと思っています。</p> <p>資料1の4ページの3をご覧ください。ここに記載している地域子ども・子育て支援事業の利用者支援事業、これがまさに保育コンシェルジュのような支援をするための事業を指しています。今後の方向性としては、保育の需要は高まっていくと思いますが、市の下限時間の基準を下げっていく方に向かっていくと思います。様々なニーズがある中で、保護者の要望を聞いて情報提供やアドバイスをする事業については、設置場所や担当職員などをこの審議会の中でも御意見をいただき、前向きに考えていきたいと考えています。</p>
和泉会長	<p>大きく分けると2つの対応が必要で、1つ目は、待機児童を解消していく。2つ目は、多様なニーズにどう対応していくかである。多様というところで一時預かりのような利用をどのように充実させニーズに対応していくかだと考える。</p> <p>他に何かご質問等ありますか。</p>
田中委員	<p>個人的にはもっと穏やかな推移で行くのかなと思っていたが、平成27年度から穏やかではない結果になっている。これに対して、もっと関わる人の採用や覚悟などが心配である。</p>
事務局	<p>現在でも人材確保について苦労しています。人材確保については工夫していますが、それでも足りないところがあります。人材確保に向け、これからどのように図っていけるかが重要だ</p>

田中委員	<p>と認識しています。</p> <p>吉川市では寺子屋事業などがあつたが、あのような組織を活用して進めていくのも一つだと思うが、そのような計画は考えているか。</p>
事務局	<p>現時点ではそのような計画はありませんが、情報のやり取りは行っていますので、連携できる事業があれば積極的に調整し取り組んでいきたいと思ひます。</p>
田中委員	<p>長期休暇の時に困っている人が多いと自由回答集の中にもあつたので、学童保育室だけでなく、いろいろな資格等をもつた人材を活用して進めていくのも一つだと思う。</p>
和泉会長	<p>よろしいでしょうか。見込みの提示ということで今回はかなり危機的な状況であることを認識できたと思う。その他、御意見がなければ議事は以上となります。ありがとうございました。</p>
和泉会長	<p>&lt;会議録署名人の指名&gt;</p> <p>五十嵐委員と戸張委員を指名。委員了承。</p>
事務局	<p>&lt;事務局からの連絡事項&gt;</p> <p>次回の内容について、本日、御説明した量の見込みと方針に基づき、これから具体的な数値を定めていくこととなりますが、実態や制度の改正を含んだうえでの見込みを参考となる数値と一緒に示しながらイメージできるものを工夫してお示ししたいと考えています。また、国の新制度の動向について、次回の審議会までに国の公定価格の骨格が公表されるものと見込んでいます。これが公表されると、平成27年度以降の幼稚園等の動</p>

きが出てくると思われるので、制度の中身について案内できればと思っています。以上の2点が次回の議題になると現時点では考えています。

なお、保育所と学童保育室の保育料の件については、前回の審議会で御案内したところですが、新制度の中で検討していきたいと考えていますので、改めて御提案させていただきます。

次回の審議会は、平成26年5月29日（木）午後6時からで決定。

<閉会>

以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

平成26年4月16日

署名委員（戸張精一 自署）

署名委員（五十嵐修 自署）